

平成30年8月4日

南の風 278

南部ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

横浜市及び神奈川県中学校総合体育大会のゲームからです。

3年生にとっては、中学校生活最後の大会でした。一人ひとりがそれぞれ思いを持って臨んだ大会だったことでしょう。勝敗は別として、中学の部活動で培った様々な『力』を、存分にコートに残していたと思います。神奈川県優勝は、女子相模女子、2位鶴ヶ峯、男子優勝は原、2位大谷でした。この4校が神奈川県の代表で第48回関東大会（群馬8/7～9）に出場します。**健闘を祈ります！！**

さて、何試合か観戦させてもらった中で、感想を書きます。

まず、ベスト8以上のチームは、1対1のシュートの引き出しが増えていました。特に男子は、フロッターシュート、ギャロップシュート、ユーロステップシュート（ギャザーステップもあった）は当たり前前にやっていました。女子でも取り組んでいる選手がいるのですが、バランスを維持することが難しく、決定率は男子に劣っていました。ただチャレンジすることが大切ですから、ハビット化してゲームで使えるようにしてほしいです。

次に、ピックプレイ（ボールマンのディフェンスにスクリーンに行く）からドライブや合わせを戦術として取り入れるチームが増えたことです。マンツーマンディフェンスを打ち破るためには、当然スクリーンプレイは必要です。その中でもピックプレイは基本となるもので、正しい掛け方をミニバス、中学時代に身に付けてほしいものです。

もう一つベスト4以上のチームに共通していたのは、キックアウトからのパスの精度がよかったことです。『中を突いて外から攻める』というのはバスケットボールの普遍的な原則です。中へのドライブやポストプレイから、外へパスを出して3Pを狙うという流れが板についていました。3Pや外のシュートの決定率は、ゲームによって、またディフェンスの対応力によっても変わってきますが、中学生の時代に基本的な攻め方を身に付けることはたいへん大事なことです。

次に、私が感じた今後の課題についてです。

速攻です。例えばリバウンドからのボールの出し方やつなぎ方です。ディフェンスの圧迫がなく、味方が走っていれば、躊躇なくタッチダウンパス（ロングパス）です。ですからリングを一瞬ルックすることを忘れないことです。さらに言えば、リバウンドを取る前に味方を感じることができればベストです。リバウンドからロングパスが出なければ、ボール運びです。チームによって約束は若干違うと思いますが、走るコース、ストップ&ミート、カットの仕方、アングルの取り方は、繰り返し練習しておきたいプレイです。

運びで気づくことはドリブルが多かったことです。また、ランナーやつなぎのプレイヤーもただ走る場面が多く、「何処をどう走る」「何処でどうボールに合わせる」といった『意思を感じさせる走り』が少なかったです。ボールの受け手がないので、ドリブラーが仕方なしにドリブルで運ぶ場面や、逆にドリブラーが強引にドリブルを続けてしまう場面も見られました。

次号では、速攻から運び、フロントコートへのエントリーについて検証してみます。